

# 人まちづくり事業 元気な島づくり事業

## 離島自然資源活用による交流活性化事業

団体名  
宗像ライフセービングクラブ

サーフィンしながらここ10年島を訪れ、海や山の自然に魅了されてきました。この補助金を活用し、もっと積極的に島の魅力をアピールし、島民との交流を深めたいと思います。

初年度である今年は、地島でのサバイバルキャンプを実施しました。小学3～6年生26人(島外12人、島内14人)が参加し、9月14～15日に1泊2日で行いました。

島に自生する竹を切り出し、組み合わせ、ティピーという簡易のテントを作りました。

白いテントには手のひらを使って模様をつけました。

カヤックやボートで遊んだり、キャンプファイヤーで夢を語り合ったり、島内の子どもたちと交流しました。



問合せ先  
0940-52-1388 (北條)

## 新規事業紹介

今年度採択された宗像市人づくりでまちづくり事業補助金、元気な島づくり事業補助金の交付団体の中から、新規事業を紹介します。

## 宗像市・金海市市民交流(草の根)事業

団体名  
金海・むなかた親善の会

姉妹都市の韓国金海市の親善大使として交流を深めた会員で、子どもたちにも、その交流のパイプを繋ごうとこの事業を提案しました。

「身近な国際交流」を合言葉に、両市の子どものための出会いの場を作ります。1年目は、金海市で事業の打合せ、11月からは、市内の小・中学生の参加者を募集します。参加者には、韓国の言葉や文化などの事前研修を3回ほど開催し、2年目からは、相互で交流を実施します。

この事業をきっかけに、次世代を担う子どもたちが世界に目をむけることの楽しさを知ってもらいたい、と願っています。



金海市での事業打合せの様子

小・中学生団員募集のお知らせ  
募集日：平成25年11月～平成26年1月末  
募集対象：宗像在住の小学4年生～中学3年生  
交流の日程：平成26年7月19日～21日(予定)  
参加費：30,000円程度\*事前研修有(3回程度)

問合せ先  
g.m.shinzen@gmail.com  
(渡邊)

## 人づくりでまちづくり補助金(2次募集) 4事業が決定

人まち補助金2次募集で、新たに交付決定した4団体に、9月9日(月)市長から交付決定通知書が渡されました。(採択4事業は以下のとおり)



### 学習サポート事業

メイクハッピー&ピース

様々な理由で学習・メンタル面に支援が必要な児童生徒のサポート

### 詩吟を通しての世代間の交流事業

宗像詩吟の会

古典芸術の詩吟・和歌・俳句を普及振興し、世代間の交流を図る

### ザ・マッチ・オブ 東海大五高VS宗高

東海大五高・宗像高 定期戦実行委員会

市民参加型の運動部定期対抗戦を創設。今年度は硬式野球部対抗戦を実施

### フレッシュeco活!! in宗像

福岡教育大学 環境サークルeco愛

宗像3大学の大学生が連携しての環境活動

## 先生たちの力になります

### 「日本の伝統文化」を生で体験!!

宗像市文化協会では、伝統文化を子どもたちに伝えたいとの思いから、まず先生方に知ってもらおうと、昨年度よりメイトム宗像で研修会を開催しています。

今年は8月2日に行なわれ、小・中学校の先生方やニュージーランド使節団員の中学生の参加がありました。7つの協会(三曲協会、舞踊協会、謡曲協会、吟剣詩舞道協会、民謡協会、茶道協会、華道協会)が、学校の教科書に沿った内容をもとに実演を交え、先生方にも充実した研修となりました。伝統文化が絶えないようにしたいとの文化協会の思いが、先生方に通じ、今後、各協会が学校への出前講座を通して協力していきます。

#### 【参加者の感想】

●本日はありがとうございました。伝統文化を伝えていく役割を学校が是非担っていかねばと考えています。

●伝統文化は自分とは(子どもたちとは)遠いものだと思っていましたが、体験したり、見せていただいたりすると「楽しい」「自分たちにも(子どもたちにも)できそう」「もっとやりたい」と思いました。今まで子どもたちに伝統文化のことをなかなか教えられず、もったいなかったと反省です。

#### 扇子でエクササイズ

日舞では、扇子はいろいろなものの表現に活用します。先生方も扇子を使ったエクササイズに挑戦しました。



#### 舞踊と民謡のコラボ

民謡協会の皆さんの歌と生演奏、舞踊協会の皆さんの踊りがコラボした「炭坑節」で会場は盛り上がりました。



#### 茶道体験

お菓子のいただき方やお茶の飲み方を茶道協会の皆さん方に丁寧に指導しました。



#### 華道体験

華道協会の方が準備した花を使って実際に生けてみました。生けたお花はお土産です。

主催：宗像市文化協会

## 市民力をエンジンに 活プランを点検する。

年間シリーズ その5 <活動の“場”>



河東西小の開放ゾーン

「活用はしやすいのですが、子どもたちの安全面では不安も残ります。一番いいのは、子どもたちが地域の皆さんと顔見知りになっていることです」(高田校長)

学校が市民活動団体の拠点となるかどうか。まずは学校とのしつかりした信頼関係が問われます。それは行政、教育委員会、学校現場、市民活動団体とが連携しなければできないこと。市活プランでの取り組みが試される課題のひとつです。

## 「開かれた学校」を拠点に

「市」民活動推進プランの「場」のひとつとして、学校や公共施設の開放に取り組み施策を掲げています。学校現場を取材してみました。

【日里東小のケース】  
「おひさま文庫」の野田美子さんは、日里東小「朝の読書」「子育てサロン」、子どもの居場所「ワクワク広場」等の学校支援ボランティアを20年近く続けています。「おひさま文庫」に寄せられる学校からの信頼の厚いことがポイントになっています。このため、拠点である会議・研修室は、いまでは「おひさま文庫」としても定着しています。



17年間、「日里東小を拠点に活動する「おひさま文庫」

※市活プランとは、市民活動推進プランの略。豊かていきがいのあるまちにするために、元気な市民活動を応援していこうというプランです。宗像市のホームページから「宗像市のご案内」⇒「各種計画」⇒「宗像市市民活動推進プラン」で読むことができます。

シリーズ

## 市民のちから

「この人、こんな活動」

### 内田 恵さん

あったかママすぽっと代表



### 『ひとりぼっちじゃないよ』

子どもができるまでは、転勤族で気ままに暮らしていました。市民活動や地域とは無縁の暮らしでしたが、今は子どもの成長とともに出会えた人たちとつながりあって、「発達障がい」についての理解を深める活動をしています。

#### ●誤解しないで

我が子は、生まれてからずっと泣いてばかりで大変でした。発達の遅れがあることがわかったあと、ご近所の方から「子どもを泣かせているんじゃないかと心配してたのよ」と言われたことがあります。子どもに障がいがあると、親が悪い、しつけがなってない、などの誤解を受けることも多いのです。

#### ●共有共感の時間を

同じ幼稚園に通い、同じような子育ての悩みを持つお母さんたちと話すため、園でサークルを作りました。このサークルが活動の場を広げ、今の形になっています。子どもの成長の一步先を見据えて情報交換をしています。

#### ●ペアレントメンターの導入へ

障がいを持った子どもを育てた親が、その経験を次の世代に伝え、悩んでいる親を支える人(ペアレントメンター)になるようなシステムを宗像にも作っていただけたらと考えています。

「あったかママすぽっと」では、子どもの特性を理解するための講座を、9月から10月にかけて4回シリーズで実施中です。途中からの参加(単発)もできます。連絡先 0940-34-8228(内田)

※団体の詳しい活動内容については、メイトム宗像のホームページ、あるいは市民活動団体ガイド「市民のちから」をご覧ください。